

普通期稲作情報 第2号

令和6年7月18日
J A む な か た
北筑前普及指導センター

1 気象と生育概況

宗像アメダスによると6月1日～7月15日の平均気温は平年より1.9℃高く、日照時間は平年比119%、降水量は平年比118%で経過しました。

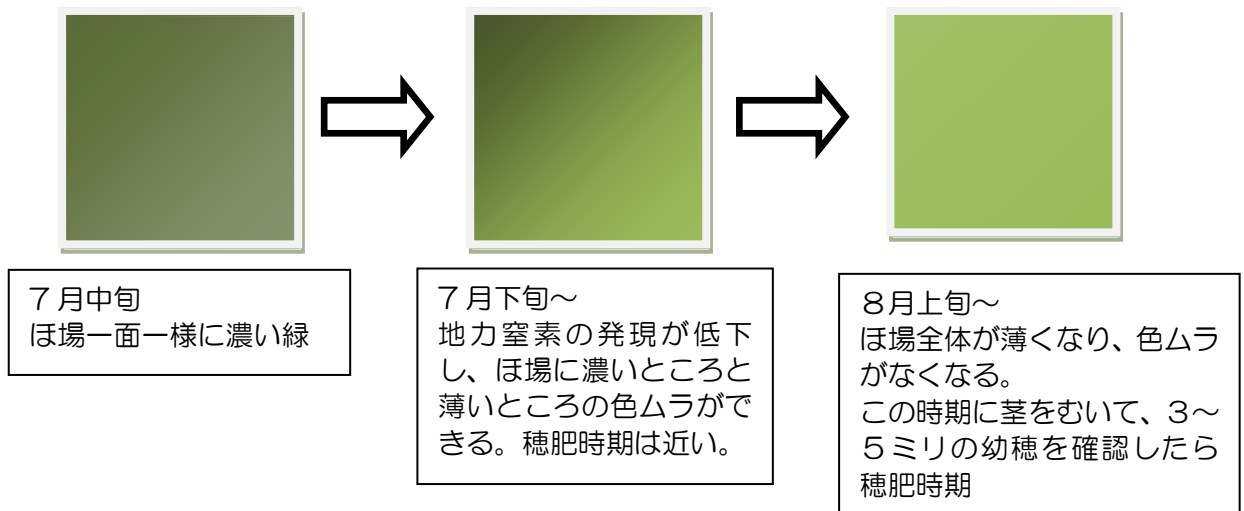
今後は以下の事に留意してほ場の管理を行いましょう。

2 水管理

6月中下旬植えの早生～中晩生品種は、間断かん水を実施し有効茎数(20本程度)が確保され次第、中干しを開始しましょう。スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)対策や水不足で田植後浅水～落水管理となったほ場は茎数が少ないため、中干しを弱めに行うか間断灌水を継続し、茎数を確保しましょう。

3 穂肥

穂肥時期の決め方(6月20日移植のヒノヒカリの例)



品種別出穂期予想と穂肥時期 (一般平坦地)

| 品 種 | 予想出穂期 | 穂肥1回目 | 穂肥2回目 |
|--------|--------------|-------|-------------|
| 夢つくし | 8/8頃(6/10植) | 7/23頃 | |
| 元気つくし | 8/20頃(6/20植) | 8/1頃 | 1回目から7日後 |
| ヒノヒカリ | 8/27頃(6/20植) | 8/7頃 | |
| ツクシホマシ | 8/31頃(6/20植) | 8/8頃 | 1回目から7～10日後 |

○穂肥施用量は、稲作ごよみを参照してください。

4 病害虫防除

ウンカ類の発生は目立ちませんが、イネカメムシなどの斑点米カメムシ類の発生（稲株元に侵入）が近隣で認められており、注意が必要です。また、葉いもちが一部ほ場でみられます。ほ場の発生状況を確認し、必要に応じて防除を行いましょう。

【要防除水準】 トビイロウンカ：幼虫の合計数

- ・ 飛来後第1世代(7月中旬～下旬)： 20頭/100株以上
- ・ 飛来後第2世代(8月中旬～下旬)： 100頭/100株以上

補正防除（ウンカ類、カメムシ類）

| 薬剤名 | 防除時期 | 散布量 |
|------------|---------|---------|
| エクシードフロアブル | 収穫7日前まで | 2000倍 |
| エクシード粉剤DL | 収穫7日前まで | 3kg/10a |

補正防除（葉いもち）

| 薬剤名 | 防除時期 | 散布量 |
|------------|--------------------------------------|-----------|
| ビーム粉剤DL | 発生初期 (収穫7日前まで) | 3～4kg/10a |
| ノンブラスフロアブル | 発生初期 (収穫7日前まで) | 1000倍 |
| コラトップ豆つぶ | 葉いもち：初発10日前～初発時 穂いもち：出穂30日前～5日前まで | 250g/10a |

○ 斑点米カメムシ類の防除について

畦畔や休耕田のイネ科雑草・牧草等が発生源となりますので、**出穂2週間前までに**草刈りを行いましょう。（※出穂直前になってから除草すると、雑草で生育しているカメムシを水田に追いやることになるので、逆効果となります）

※ イネカメムシが、7月以降に出穂前の水稻の株元に侵入しているのを確認しています。

出穂期に加害されると不稔になり、穂ぞろい期以降に加害されると斑点米が発生しますので、
① 出穂期、と②出穂期後7日頃、の2回防除が基本です。



★裏面にイネカメムシの詳しい情報を掲載しております。ご確認ください。